

平成31年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（ 西院 幼稚園）

教育目標

自分らしさを發揮し、仲間と共に育ち合う子どもの育成

年度末の最終評価

自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>一人一人の子どもが自信を持ち、支援の必要な子どもの多くも、自分らしさを発揮することができた。仲間とともに育ちあう点については、個と集団の関係が難しく、今後、個別の課題に応じた指導についてより学び、個と集団の育ちの保障をしていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>子どもたちに心を寄せ、丁寧にかかわっている。生活発表会でも、先生と子どもたちがともに考え、普段の生活が見える発表会だった。公立幼稚園の大事にしている保育をもっとわかりやすく伝えていくことの重要性を感じる。</p> <p>幼稚園では多様な経験ができるよう配慮しながら、子どもの育ちを支えている。多様な経験ができるよう、学校運営協議会としても協力をしていく。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和元年9月25日	学校運営協議会
最終評価	令和2年2月26日	学校運営協議会

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・自発的な遊びを大事にし、人とかかわり主体的に遊べる環境構成の在り方を考える。
- ・児童の姿を的確にとらえるために、園内研究で月一回児童の姿を伝え合い、カリキュラムマネジメントの視点から保育を見直していく。
- ・児童の心の動きに寄り添い、気持ちを整理してやりながら、よりよい心もちで遊べるように支援する。
- ・児童に必要な多様な動きを経験できるように保育内容を考える。
- ・イメージが豊かになるような経験の計画や環境構成に努める、
- ・一人一人が表現しようとする意欲を受け止め、児童らしい様々な表現が楽しめるようにする。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・エピソードや記録をもとにした園内研修の開催（子どもの姿の変容）
- ・週案の反省評価
- ・体を動かす遊びの内容検討

- ・人とかかわる環境構成・イメージが豊かになる環境構成の検証
- ・幼児のなりきって遊ぶ姿、ごっこ遊びの記録
- ・アンケート項目「自分から遊びを見つけ楽しんでいる」「友達と遊ぶことが好きである」「絵本や話が好きである」「体を動かして遊ぶことが好きである」

中間評価

各種指標結果

- ・エピソードや記録をもとにした園内研修の開催（子どもの姿の変容）・・・ほぼできていない。
- ・週案の反省評価・・・各担任は反省評価を確實に行っている。
- ・体を動かす遊びの内容検討・・・子どもの実態に合わせて検討工夫されている。
- ・人とかかわる環境構成・イメージが豊かになる環境構成の検証・・・イメージよりも言葉と具体物の結びつきを重視して取り組んだ。
- ・幼児のなりきって遊ぶ姿、ごっこ遊びの記録・・・記録として残っていない
- ・アンケート項目「自分から遊びを見つけ楽しんでいる」・・・94%があてはまる回答
 「友達と遊ぶことが好きである」・・・100%があてはまる回答
 「絵本や話が好きである」・・・94%があてはまる回答
 「体を動かして遊ぶことが好きである」・・・94%があてはまる回答

自己評価

分析（成果と課題）

- ・自園の子どもたちの特性の一つとして、経験の少なさからくるイメージの持ちにくさがあり、具体的な活動で子どもたちが達成感、充実感が持てるようにする。
- ・各々の反省評価、保育の改善はされているが、園全体で子どもたちが多様な経験ができるよう保育内容を検討していくことが重要である。
- ・保育記録の活用

分析を踏まえた取組の改善

保育記録から、子どもの姿の変容をとらえ、保育に生かす。

園内研修・エピソード研修の2か月一回開催

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

保育内容のカリキュラムマネジメントの実施

エピソード研修の開催回数

アンケート項目 「自分から遊びを見つけ楽しんでいる」「友達と遊ぶことが好きである」「絵本や話が好きである」「体を動かして遊ぶことが好きである」

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

社会情勢の変化に伴い、公立幼稚園にも様々な家庭状況の子どもたちが在園している。家庭での子どもたちの経験は減ってきており、幼稚園はそうした子どもたちが多様な経験ができる場である。先生方には、ご苦労だが、子どもの姿を的確にとらえて、保育内容を改善していく努力をお願いしたい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

保育内容のカリキュラムマネジメントは、話し合いを重ねてきたが、幼児の姿をとらえることはできなかったが、幼児理解を深め、マネジメントすることは難しかった。

エピソード検討会は2回実施できた。

アンケート項目「自分から遊びを見つけ楽しんでいる」100%「友達と遊ぶことが好きである」1

0.0%「絵本や話が好きである」 9.2. 5%「体を動かして遊ぶことが好きである」 9.5%があてはまる」と高い評価だった。

自己評価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	保育全般に関する重点目標は、主体的に遊べる環境構成に取り組み、幼児期にふさわしい生活が展開されたが、カリキュラムマネジメント視点から保育を見直していくことは難しかった。 健康・安全に関する教育の重点目標は、幼児に必要な多様な動きを経験できる保育内容に努めた。より良い心もちで遊べる支援については、幼児理解により努めることが必要である。 人間関係に関する教育の重点目標は、子どもへの教育・啓発に取り組み、多様な考え方に対する機会を大事にし、成果があった。保護者への啓発も重要であった。 環境に関する教育の重点目標は、身近な環境に自らかかわろうとする態度を認める保育は不十分であった。 言葉に関する教育の重点目標は、親子で絵本を楽しむ態度が育ち、言葉が豊かになる保育にも取り組み、思いを伝えようとする子どもの姿を支援してきた。 表現に関する教育の重点目標は、言葉に関する教育と連動して、自ら表現しようとする姿を支援し、子どもの考えを大切にしてきた。 道徳教育に関する重点目標は、ルールのある遊びを多く取り入れ、幼児なりに考え、してよいこと悪いことの判断が付くようにしてきた。 LD等支援の必要な子どもへの教育重点目標は、関係機関との連携やケース会議を中心に取り組んだが、具体的な手立てが不十分であり、今後、さらに学び深めてく必要がある。
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善 何よりもまず幼児理解が基本となると痛感したので、一人一人の子どもの理解に努める。 記録は確実にとり、研修などで多角的に考察していく。 個別の指導計画を教員で研修し、どの子どもも細かい配慮の基、発達や成長を捉え、促していくようとする。 個と集団の育ちを支えるために、教師が模範となりつつ、人権教育を充実していく。
	学校関係者による意見・支援策 幼稚園で多様な経験ができるように、様々な場面で支援していく。

(2) 幼小連携・接続について

具体的な取組
・年2回公開保育への参加を、小学校、他の就学全施設に積極的に呼掛け、研究協議で子どもの姿を探る。 ・幼稚園からも小学校の授業参観に参加し、子どもの姿をアンケートなどで積極的に伝えていく。
(取組結果を検証する) 各種指標
・公開保育の参加人数 ・小学校の授業参観の参加回数 ・アンケート項目「幼稚園、小学校の連携ができている」

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開保育の参加人数・・・小学校から 30 名の先生が参加 ・小学校の授業参観の参加回数・・・2 回 ・アンケート項目「幼稚園、小学校の連携ができている」・・・85%があてはまる回答 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校からはたくさんの先生に保育を見に来ていただいた。幼稚園からも管理職だけではなく多くの先生に授業を見に行ってもらえるようにすることが課題である。また、子どもの姿を共通理解する研究協議も持ち方を工夫する。 ・子どもたちは、小学校や小学校の先生に好意や憧れをもって、小学校の施設等を使わせてもらっている。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接続期に向けて、具体的に話し合えるよう研究協議の改善をする。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業参観の参加回数 研究協議の内容
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>小学校との連携はよく取れている。「西院の子どもは優しい」「気持ちが穏やかである」その良さを生かして今後も連携をしていってほしい。</p>
<p>最終評価</p> <p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>授業参観は、2 学期以降、4 回参加できた。その中の 1 回は、校内研修に参加し、研究協議で意見交換することができ、学校の教育の意図や、幼稚園の教育について話し合うことができた。</p> <p>年度当初、幼稚園の公開保育を 2 回予定していたが、小学校との予定が合わず、1 回の公開保育となつた。</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>互いの保育・授業を参観する機会を多く持つことができた。幼稚園の研究協議にも小学校の研究協議にもそれぞれの教員が参加することができた。子どもの姿をよく見て理解することで、自立心、協同性などの 10 の姿を捉えることができることや、子どもの思いを知ることができることについては、小学校と共に理解ができた。次年度も研究協議でともに学んでいきたい。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>年 2 回の公開保育は今後も続けていくが、幼稚園から積極的に小学校の研究授業や校内研究に参加し、小学校の教育についてより学んでいく。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>幼小接続については、小学校も幼稚園もともに学ぶ姿勢が大事と考える。子どもを中心に連携を深めていただきたい。</p>

（3）預かり保育について

具体的な取組

- ・預かり保育担当者、担任、保健職員の連携を密にし、健康管理、親子関係、人間関係などを共通理解し、同じ方針で取り組んでいく。
- ・長時間の子どもは人数が少なくなるが、兄弟関係のような人間関係が築けるように配慮し活動内容を考える。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・預かり保育の記録内容 参加人数
- ・指導計画の見直し
- ・アンケート項目 「子どもは預かり保育に喜んで参加している」
「預かり保育の様子がよくわかり安心できる」

中間評価

各種指標結果

- ・預かり保育の記録内容 参加人数・・・参加人数は減少、保育記録内容は個の様子をとらえきれていなかつた。
- ・指導計画の見直し・・・できていない。
- ・アンケート項目 「子どもは預かり保育に喜んで参加している」・・・76%があてはまる
「預かり保育の様子がよくわかり安心できる」・・・63%があてはまる

自己評価

分析 (成果と課題)

保育担当者が途中で辞職したが、教員の努力で、安全に預かり保育が実施された。人的配置がない中では、安全に子どもたちを預かることで精いっぱいの状況である。

分析を踏まえた取組の改善

保育担当者を早期に確保して、預かり保育の改善に努める。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

年度当初と特に変更はない。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・9月19日から新しく担当の先生が見つかったと聞いて、安心した。支援の必要の子どもがいる中の預かり保育で、ご苦労もあると思うが、保護者、子どものために努力してほしい。
- ・子どもたちの成長のために、体を動かした遊びと一緒に楽しんでくれるボランティアの紹介していただいた。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

- ・預かり保育の記録内容 参加人数は、前期よりも大幅に増えた。
- ・指導計画の見直しは、見通しがもてる預かり保育の実施に仕方や、人数が多い時、少なくなった時の実施方法に変化をもたせるなど、工夫した。
- ・アンケート項目 「子どもは預かり保育に喜んで参加している」 82.5%
「預かり保育の様子がよくわかり安心できる」 60.0%

自己評価

分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況、次年度の課題

預かり保育担当者が見つかり、子どもたちが喜んで参加するようになり、参加人数も増えた。今後も子どもたちが楽しんで参加できる内容や雰囲気づくりに努める。
預かりの人数が増えたことで、少人数での人間関係を深めることはできにくかった。

	<p>「預かり保育の様子がよくわかり安心できる」の評価が60%だったことについては、その日の様子を伝えることや、ホームページ掲載ができていなかったことによると思われる。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>預かり保育の保育内容の検討をする。</p> <p>保護者にその日の様子を伝えること、ホームページの更新を図る。</p>
学校 関係者 評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>次年度も、リズムランド、水曜日のお弁当の保育補助など預かり保育に協力していく。</p>

(4) 子育ての支援に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての教職員が、子どもと保護者の名前と顔がわかり、にこやかに対応する。 未就園児クラスのほっこり子育てひろばの開催。 保護者の悩みに真摯に向き合い、丁寧にかかわっていく。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て支援の参加人数、相談件数 ほっこり子育てひろばの参加人数 教職員への意識調査アンケート「未就園児の親子の顔と名前が一致している」 「未就園児の親子に必ず挨拶している」
--	---

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て支援の参加人数、相談件数・・・参加者は増加、相談件数も増加 ほっこり子育てひろばの参加人数・・・保護者の50%程度の参加 教職員への意識調査アンケート「未就園児の親子の顔と名前が一致している」・・・75% 「未就園児の親子に必ず挨拶している」・・・100%
自己 評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育てや発達に不安を抱える保護者の来園が増え、相談も増えている。担当の教員が丁寧に受け入れ、園長につなぐことができるので、保護者の安心感が高い。 ほっこり子育てひろばには、熱心な保護者が参加してくる。 教職員の未就園児の親子への意識は高い。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>ほっこり子育てひろばについては、魅力的な内容の検討と参加対象枠を広げる。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>ほっこり子育てひろばの参加人数</p>
学校 関係者 評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>子育て支援に関しては、未就園児への広報を学校運営協議会でも積極的にしていく。</p>

評価	
----	--

最終評価

自己評価	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>ほっこり子育てひろばについては、お茶体験との抱き合せや、子どもたち主催のパーティーなどに保護者が体験参加し、実際の我が子の姿を見て、我が子が何を経験し、何を学んでいるのかを知る機会となった。参加人数も全保護者の80%になった。</p> <p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>すべての教職員が、子育て支援にかかわる意識はもつことができた。保護者への声かけやあいさつななど、積極的に行った。</p> <p>子どもの見方などについては、保護者の思いを受け入れながらもその子の課題に触れることは難しかった。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今後も、すべての教職員が、子育て支援にかかわる意識をもち、保護者への声かけやあいさつななど、積極的に行う。</p> <p>子育てに悩む保護者が増える中で、親の課題や子の課題を把握しながらも、親の気持ちに寄り添い、支えていく支援について学んでいきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>子育て支援については、公立幼稚園を頼りにする保護者が多い。先生か方の専門性を活かして、若いお母さん方を支えてほしい。</p>

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

具体的な取組	<p>・月一回の公園清掃を通し、公共の施設を大事に使う意識を持つ。また、地域の方と一緒に掃除をする経験を通し、様々な人とのかかわりに気づいたり、自分が役に立っていることを感じたりできるようにする。</p>
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・公園清掃の回数 ・地域、保護者等の参加状況 ・子どもの姿の変容 ・アンケート項目

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・公園清掃の回数・・・毎月1回実施 ・地域、保護者等の参加状況・・・保護者のほとんどが参加 民生委員と連携 ・子どもの姿の変容・・・人のために役立つことに気持ちよさを感じる子どもが出てきている。
--------	---

<p>・アンケート項目・・・今回地域とのかかわりについてのアンケートは実施できていない。</p>	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園清掃は子どもと先生を中心に月一回実施し、民生委員や保護者の協力も得られており、公共の施設を大切に使う意識は持てている。今後さらに地域との連携を進める。 ・子どもたちの意識の中に役立ち感が出ていていることは大きな成果である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今後も、同じように取り組んでいく。さらに、地域との連携を強めるために、自治連合会の各種団体などにも協力をお願いする。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>民生委員・保護者以外の地域の方々との連携 子どもたちの意識の変容</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>公園の美化については育成連などとも協力してやっていくことが大事である。子どもたちを地域で見守る意識をもってかかわっていきたい。</p>
<p>最終評価</p>	
自己評価	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員・自治連合会と連携することが増えた。 ・子どもの意識は前期でかなり変化した。そのことで保護者の意識が大きく変わり地域と連携することで子どもの育つにつながると感じができるようになった。
	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <p>自治連合会や中学生と一緒に公園清掃など活動することができ、地域の方とふれあい、自分たちが役立っている感じることができた。</p> <p>軍手をするという目に見えることが、子どもたちのやる気を引き出し、積極的に清掃活動に取り組み、公園や地域に親しみが持てた。</p>
学校関係者評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>次年度も、地域の方にお力を借りて、公園清掃を継続する。また、公園清掃や地域とのかかわりの写真などをホームページ等で広く発信する。また、子育て基幹ステーション事業に協力する。</p>
	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>子育て基幹ステーション事業と幼稚園の90周年事業を抱き合させて、人形劇を開催し、地域の方にも西院幼稚園を知っていただく機会としてはどうか。</p>

(5) 業務改善・教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園行事の精選 ・会議の効率化

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・園外保育の回数を減らし、一つの遠足で経験できる内容を増やす。 ・職員会等の資料を事前に配布し、会議時間の短縮を図る。
(取組結果を検証する) 各種指標

中間評価

各種指標結果						
<ul style="list-style-type: none"> ・園外保育は精選して、回数は昨年に比べて減っている。一つの遠足について何をどのように経験させたいのか、話し合いを重ねている。 ・会議時間の短縮については実行できていない。 ・年休取得は目標をほぼ達成している。 						
自己評価						
<table border="1"> <tr> <td>分析 (成果と課題)</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・保育内容を鑑み、園外保育は精選していくことで、回数を減らしながらも、子どもたちの育ちにつながるものとなっている。 ・会議は事前に資料が配られることができておらず、時間短縮ができない。 ・年休取得回数は、夏季休業中の預かり保育の担当の回数などを工夫して目標達成ができた。 </td></tr> <tr> <td>分析を踏まえた取組の改善</td></tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・会議時間の短縮には、事前資料配布が必須であり、資料の作成の分担が必要であるが、現在、クラス持ちの教頭が一人で資料作成を担当しており、今以上の改善は見込めない。 ・今以上に改善できる取組が思い当たらないが、教職員一人一人の業務に対する困難さや達成感、働き方に対する意見等をヒアリングしていく。 </td></tr> <tr> <td>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</td></tr> <tr> <td>教職員へのヒアリング</td></tr> </table>	分析 (成果と課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容を鑑み、園外保育は精選していくことで、回数を減らしながらも、子どもたちの育ちにつながるものとなっている。 ・会議は事前に資料が配られることができておらず、時間短縮ができない。 ・年休取得回数は、夏季休業中の預かり保育の担当の回数などを工夫して目標達成ができた。 	分析を踏まえた取組の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・会議時間の短縮には、事前資料配布が必須であり、資料の作成の分担が必要であるが、現在、クラス持ちの教頭が一人で資料作成を担当しており、今以上の改善は見込めない。 ・今以上に改善できる取組が思い当たらないが、教職員一人一人の業務に対する困難さや達成感、働き方に対する意見等をヒアリングしていく。 	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	教職員へのヒアリング
分析 (成果と課題)						
<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容を鑑み、園外保育は精選していくことで、回数を減らしながらも、子どもたちの育ちにつながるものとなっている。 ・会議は事前に資料が配られることができておらず、時間短縮ができない。 ・年休取得回数は、夏季休業中の預かり保育の担当の回数などを工夫して目標達成ができた。 						
分析を踏まえた取組の改善						
<ul style="list-style-type: none"> ・会議時間の短縮には、事前資料配布が必須であり、資料の作成の分担が必要であるが、現在、クラス持ちの教頭が一人で資料作成を担当しており、今以上の改善は見込めない。 ・今以上に改善できる取組が思い当たらないが、教職員一人一人の業務に対する困難さや達成感、働き方に対する意見等をヒアリングしていく。 						
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標						
教職員へのヒアリング						
学校関係者評価						
<table border="1"> <tr> <td>学校関係者による意見・支援策</td> </tr> <tr> <td>人手不足が要因にあるように思う。</td></tr> </table>	学校関係者による意見・支援策	人手不足が要因にあるように思う。				
学校関係者による意見・支援策						
人手不足が要因にあるように思う。						

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果					
教職員のヒアリングについては、やる気のある職員はより意欲をもち、時間内で効率よく仕事をしようとするようになった。					
自己評価					
<table border="1"> <tr> <td>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</td> </tr> <tr> <td>幼稚園の職員数は少人数のため、一人一人の仕事量が多い。仕事量を減らすことが重要で、園行事についてはかなり厳選して、教育効果の上がる内容に変えることができた。</td></tr> <tr> <td>会議の効率化については、次年度に課題が残る。</td></tr> <tr> <td>分析を踏まえた取組の改善</td></tr> <tr> <td>会議の効率化については、次年度に課題が残るが、会議をしながら、レジュメの修正版を作つて</td></tr> </table>	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題	幼稚園の職員数は少人数のため、一人一人の仕事量が多い。仕事量を減らすことが重要で、園行事についてはかなり厳選して、教育効果の上がる内容に変えることができた。	会議の効率化については、次年度に課題が残る。	分析を踏まえた取組の改善	会議の効率化については、次年度に課題が残るが、会議をしながら、レジュメの修正版を作つて
分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題					
幼稚園の職員数は少人数のため、一人一人の仕事量が多い。仕事量を減らすことが重要で、園行事についてはかなり厳選して、教育効果の上がる内容に変えることができた。					
会議の効率化については、次年度に課題が残る。					
分析を踏まえた取組の改善					
会議の効率化については、次年度に課題が残るが、会議をしながら、レジュメの修正版を作つて					

	いくなど、効率化に努めたい。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>お手紙配布の軽減など、ホームページ上で確認できることはホームページを利用する。 学校行事に何らかの形でかかわり、先生方の業務改善に協力したい。</p>